

『時事直言』 No.1564 2022年8月17日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

アメリカの内部勢力対立で救われた習近平

ペロシ米下院議長の訪台の目的は明らかに中国を侮辱し、習近平国家主席の顔に泥を塗り、よって中国を対台湾武力行使に追い込むことにあった。

中国軍は8月4日から7日、報復として台湾周辺6か所で日本の排他的経済海域にミサイルを撃ち込むなど大規模な実弾演習を行ったが、ペロシに続いて米議会超党派議員6名が訪台、さらなる軍事支援を約束するなど対中攻勢を強化、習近平は何らかの対台湾軍事行動を迫られていた。

私は、人民解放軍は1958年と同様に台湾の軍事施設が密集している金門島を砲撃するのではないかと考えていた。

確かに人民解放軍は金門島周辺に多数のドローンを飛ばし、砲撃準備をしていた。

ところがアメリカで「ある力」が働き、なんとペロシは帰国後のテレビ出演で、「中国は世界でも有数の自由度の高い国だ」と、台湾で民主主義を守る為に中国と戦うと言った勢いはどこへやらで正反対の発言に終始した。

米議会はペロシを訪台へ誘導したイスラエル右派とペロシの訪台と外遊中の対中の発言を非難するイスラエル左派が対立している。

ペロシは帰国後民主党大物で大統領選指名をヒラリー・クリントンと争ったバーニー・サンダース上院議員等の多数派のリベラル派からつるし上げを食い、対中挑発を引っ込め、それどころか中国を褒め称える内容の発言をした。

さらに中間派のバイデンは左派に押しまわれ習近平に11月フェイス・トゥー・フェイス(Face to face)面談首脳会談を提案するに至った。

中台軍事衝突、米中冷戦激化を進めているのは、私が安倍殺害犯と直感したのと同じ勢力、すなわちケネディ暗殺、セプテンバー・イレブンの真犯人である。

同勢力の実働勢力とも言えるネオコンはペロシの二枚舌、バイデンの米中冷戦緩和(首脳会談)を許すだろうか。

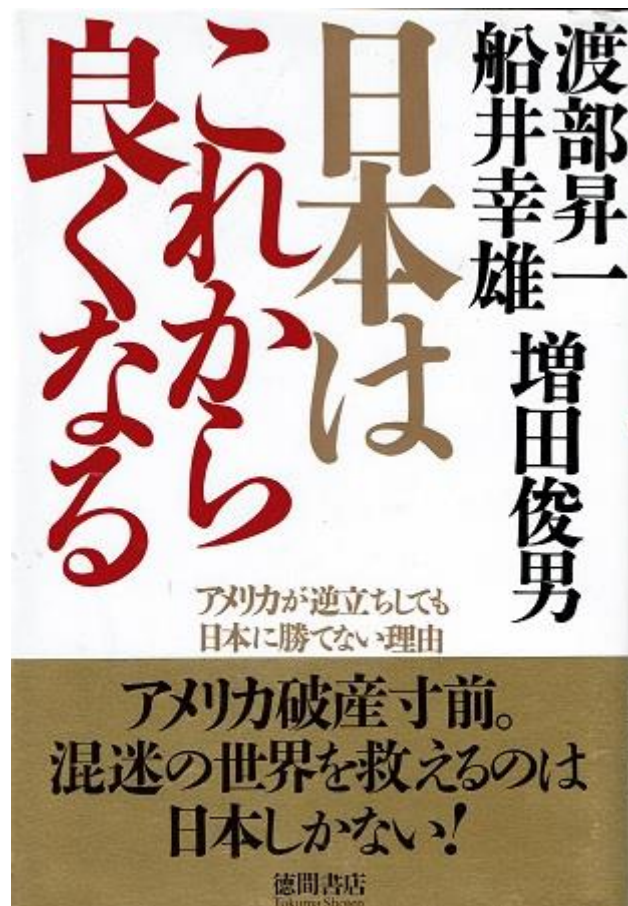
世界が既定の方向へ順調に流れている時、流れに逆らう者は消される。

9月5日から始まる増田俊男の「インターネット国際政経塾」(増田塾)第2話「安倍に続いて消されるプレーヤーはトランプ、バイデンそれとも習近平？」で詳しく述べる。

第 10 話「日本はこれから良くなる」は大変動の年 1998 年 10 月に出版した本の名である。

変動の年には「何かが起きる」ものである。

現在の受講生は、今回の講義がベースにあるので、次回の理解度と感動が倍化するでしょう。



「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。